



学び舎に魂合わせ

令和5年12月4日（月）
第8号（2学期）
伊那市立東部中学校
作成 橋倉美奈子

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果から

中学3年生を対象に行われております全国学力・学習状況調査の結果について、本校生徒の状況についてお知らせします。



* 生徒質問紙より * *

〈生活面〉

規則的な生活習慣が確立している生徒が多い。

〈自尊心 心の成長〉

『自分にはよいところがあると思う』と答える生徒の割合は低い傾向が続いている。

〈いじめ 人間関係〉

『学校に行くのは楽しい』『困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる』など人間関係において肯定的な回答をした生徒の割合が低い。

〈学習面（家庭学習 読書 新聞等）〉

家庭での学習時間は、例年とほぼ変わらず、平日、休日ともに1時間～2時間と回答した生徒が多い。読書についても、『読書が好き』と答える生徒の割合が多く、「家においてある本の冊数」も多い傾向は変わらない。『新聞を読んでいる』と答えた生徒は減っている。

〈地域とのかかわり〉

『地域の行事に参加している』に対して「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した生徒は多いものの、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある』や『日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい』について肯定的な回答がやや低い。

〈ICT 機器の使用状況〉

『授業の中でのICT機器の使用状況』や『学習の中で、ICT機器を使うことは勉強の役に立つか』に対して、授業での積極的な導入により、勉強の役に立っていると考えている生徒の割合が多い。しかし『授業時間以外で勉強のために使う』時間は少ない。

〈授業に関わって〉

本校の授業改善の3観点「観る」「聴く」「伝える」に係る質問項目は、昨年度と比べて肯定的な回答の生徒が減っている。一方で『1,2年生のときに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか』に対して、多くの生徒が自分に合った学習ができていると感じている。

〈道徳 学活 総合について〉

総合的な学習の時間の中で『自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる』ことが十分でない状況がうかがえる。また、学級活動や道徳においても、学校生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている』や、『自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる』への肯定的な回答が低い。

〈全体を通して 今後の取り組み〉

「東部中Pride」の二つの重点目標である「自主・自立」「多様な学び～生き方へ～」により、自他を大切に教育を進め、相互理解や社会貢献への意識を高めていきます。また、東部中「学び合い style」3観点「観る」「聴く」「伝える」の視点をもった授業改善を進め、話し合い活動では、何をどのように伝えるのか、何のために伝えるのかということ意識したものになるよう改善を図っていきます。ICTの利用では「学習に役立てる」と意識へと変換できるような授業改善や実践の積み重ねを行っていきたいと思います。さらに、探究的な学習の充実を図り、学校、家庭、地域が一体となった活動を充実させていきたいと思います。

＊ ＊学力の状況から＊ ＊



国語の調査

『国語の授業内容はよくわかる』と感じている生徒は全国並みである一方で、国語の勉強の大切さを自覚し、社会に出たときに役立つよう前向きに学習している生徒、国語の学習が好きだと感じている生徒の割合がやや低い傾向があります。

昨年度の結果と比較すると、『読むこと』の記述は全国並みですが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」では課題があります。

授業において友と意見を交流する場面を多く設けることで話すことを日常的な活動へと位置づけながら、自らの立場を決めて書くことのできる課題を設定した授業づくりに努めて行きたいと思っています。

数学の調査

『数学の勉強が好きである』『数学の授業の内容はよく分かる』と感じている生徒の割合が全国に比べてやや低い傾向にあります。また、『数学の勉強は大切』と考え、『将来、社会に出たときに役立つ』という意識も低い傾向にあります。

単元では、例年に引き続き、「データの活用」において全国平均を上回っています。一方で他の単元では数学のことばの意味理解が不十分であったり、記述式の証明（説明）に見通しが持てていなかったりする傾向があります。

今後、本校の数学科では、生徒が数学の有用性を実感できるよう、日常の事象と数学を関連付ける授業や生徒の説明する力をつけたり、多様な考え方を身につけたりできるよう、友との関りを重視した授業に取り組んでいきます。

英語の調査

『英語の勉強は大切であり、将来、社会に出たときに役立つ』と考えている生徒は多いですが、『授業の内容はよくわかる』と回答した生徒が6割程度であり、『英語の勉強が好きである』『英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい』という生徒の少なさにも通じていると思われる。領域において『聞くこと』『読むこと』『書くこと』で全国平均を大きく下回っています。情報の正確な聞き取りや読み取りに課題が見られるとともに、『書くこと』に係る問題では無解答率も高く、英語で表現することに苦手意識を持っていることが伺えます。

今後、英語に対する苦手意識を軽減していくために、英語に自然と触れる機会を増やしていくことを大切にしていきます。授業中の教師からの指示や生徒同士の対話において英語を話したり聞いたりする機会を増やすことで英語に慣れさせたり、自分の気持ちや考えを伝える場を多く用いることで、間違いを恐れずに英語を楽しみながら活用できる力をつけていくことを目指していきます。

これらの調査で共通の課題となった「書くこと」に関しての基本的な学力の定着、「学びを生かす」意識の醸成は、今回の調査対象の教科だけの課題ではなく全教科で取り組んでいきたいと思えます。